

災害対策について

田辺 正弘 議員



先日、ワクチン接種の予約受付が始まりました。今後の円滑なワクチン接種を期待するとともに、接種に携わる医師会等の医療関係者の皆様、準備作業を進めてこられた市職員の方々にも敬意を表するものであります。

問 小中川河川改修と冠水対策について。小中川は本市の主要河川であり、防災、減災にとって極めて重要です。県の工事であっても、小中川は市民のものであります。護岸、土手は、駒込住民はもとより、みずほ台の方々の通勤、通学、大網中学校の通学路にもなっています。進捗状況は、

答 県では大網駅から主要地方道千葉大網線の道面橋までの区間の詳細設計を昨年度に実施しました。今年度から工事に着手し、継続して来年度以降も河川改修工事を進めていく予定と伺っており、市は県と連携を図りながら事業推進に協力します。

問 主要地方道千葉大網線と並行して走る箇所につきましては、道路事業と一体的に整備する予定で、そこには、みずほ台から大竹橋方面に走る市道の交差点（鉄人前）があります。右折レーンは一ヶ所しかなく、渋滞が慢性化しています。河川と道路工事の一体化による早期の着工、完成を期待しています。

答 まずは現在暫定整備のICアクセス道路入口部分を完成形にしたのち、次に道面橋からアクセス道路に向かつて小中川が並行する区間、みずほ台入口の交差点改良を含めた整備を実施していただくようお願いしているところでございます。

問 みずほ台交差点（セイルス前）は、一昨年の令和元年度において、千葉県内で交通事故が最も多く発生

した交差点であると新聞等で報道がありました。通勤、通学など、多くの市民の方々が通行、利用されている場所です。当交差点においてどのような安全対策を図ったのか、また今後図っていくのかお伺いします。

答 みずほ台セイルス前交差点における令和元年の事故件数を踏まえ、市では、東金警察署に対し、横断歩道ラインの引き直しを要請したほか、横断歩道の手前部分にガードポールを設置するとともに、交通安全協会大網支部の協力により定期的な街頭監視を実施しております。また、地元自治会から信号機の機能変更の要望があったことから、地元自治会と協議しながら、信号機の機能について調査研究を行い、昨年7月、歩行者の安全確保を優先する観点から、現在の普通信号機を押しボタン式歩車分離信号機へと変更するための要望書を東金警察署へ提出しました。

問 有害鳥獣対策イノシシについて。これまでのイノシシによる農作物の被害対策ですが、市において、イノシシの出没の多い地区の協力を得て箱わなを設置しているほか、千葉県や猟友会会員においても、わな（箱わな、くくりわな）を設置し、個体数の減少に努めています。また今年度は、市で設置する箱わなを増設するとともに、千葉県及び猟友会と連携して捕獲数を増やすことで、被害の軽減に努めるほか、イノシシの棲み家を作らないよう農地などの適正な管理について周知を図ってまいります。今後、国等の補助事業や県の有害鳥獣対策事業を活用導入し、猟友会などと連携し、地域の皆様を含めた対策組織を作るなど、より効果的な対策を検討していきます。

関連質問

山下 豊昭 議員



問 コロナ感染症接種対応について。昨日迄に本市高齢者の方に発行された予約券は何名分発行されたのか。本市人口48861名に対して何%に相当するのか、お示しください。

答 65歳以上高齢者16800名に対し4月20日より発送し5月6日に発送終了いたしました。尚全人口に対する比率は約34%となります。

問 現状の本市予約状況は順調に推移していると理解いたします。引き続き接種に向けてしっかりと対応の程お願いいたします。次にワクチン入荷と管理状況、接種状況をお示し下さい。

答 入荷状況は4月5月6月と順調に入荷され、現在、14箱16380回分入荷済8190人分が本市保健文化センターにて厳重管理中です。接種状況は4月15日より医療従事者の接種開始5月17日接種完了済で、又、高齢者施設入居者、従事者含み11施設1200人の接種完了済。65歳以上高齢者は集団接種4箇所、保健文化センター大網白里アリーナ農村環境改善センター大網病院にて、個別接種市内16箇所の医療機関で実施中です。今後も慎重対応します。引き続き市民の皆様への丁寧な接種と情報提供の発信を願います。

問 年齢別接種については先程同僚議員の質問もあり答えを頂き一定の理解が得られたので質問を割愛致します。最後までとなりますが本市に於て1年以上の長きに渡るコロナ感染症の蔓延の収束を願うばかりです。

関連質問

森 建二 議員



問 ワクチン接種について。自宅療養の方、つまり外出できない市民への接種、また接種現場におけるキャンセル待ちへの対応はいかがか。

答 自宅療養の方については、市内の訪問型医療施設やかかりつけ医による訪問接種をご案内しています。また、キャンセル待ちの仕組みですが、予約できなかった方を対象に、当日にキャンセルがあった場合のみ接種が可能となります。何らかの理由により、キャンセル待ちの対象者を確保できないと判断した場合に限り、ワクチンを無駄にしないためにも、市職員のうち、接種現場で従事している保健師や看護師、次に保育士などを優先的に接種して参ります。

市役所職員はエッセンシャルワーカーと考えます。キャンセルされたワクチンが無駄にしないためにも職員の積極的な接種を推進下さい。

問 感染症予防、そして今後の市民の健康づくりに向けた「行政保健師」の確保は十分なのだろうか。

答 今年度、健康増進課に正規職員14名、健康増進課に正規職員では3名の計17名が在籍しています。保健師における正規職員数の基準や規定は特ではありませんが、新型コロナウイルス感染症対策を含めた様々な健康保健事業を展開するためにも、市民サービスが滞らないよう、適正な正規職員数の調査、分析に努め、次年度以降の職員募集人員等について検討してまいります。

個人質問

小中学校のトイレに自由に使える生理用品の配備をしよう！

黒須 俊隆 議員



問 経済的な困窮や、親のネグレクトなどが原因で、生理用品を十分に購入できない若い女性や生徒・児童が増えています。いわゆる「生理の貧困」について、市の取り組みをお尋ねします。

答 市では、経済的な理由などから生理用品を入手することが困難な状況にある女性を支援するため、4月から保健文化センター健康増進課窓口で防災備蓄用の生理用品の無償配布を開始しました。一般配布用として、約一千三百枚を用意し、これまでに20名の方が受け取りにいられています。5月からは生活相談センター・Cもでも希望者への配布を開始しました。

併せて、生理用品を必要とする児童・生徒に使用していただくことを趣旨として、市教育委員会を通じて市内小・中学校に二千枚を配布しております。

問 小中学校に配布された生理用品は、どのように使われていますか。

答 各小・中学校では、これまで生理用品等に関する相談について、主に保健室において養護教諭に相談するケースが多かったと伺っています。そうした状況に鑑み、各小・中学校では、配布された生理用品について、主に保健室に保管し、購入できなかったり持ち帰ることを忘れていたりした児童・生徒に適宜提供し、適切に対応をしていると認識しているところであります。

一方、学校における「生理の貧困」は、単にコロナ禍だから起きてくるものだけではないと考えます。コロナ禍になる前から、本市においても「子どもの貧困」が進んできています。「生理の貧困」対策は、災害備品がなくなったら終わりとか、県や国の補助金がなくなったら終わりではなく、小学校・中学校において継続的に行うことを検討していただきたい。

問 子どもが親や教師に相談できているのか、プライバシーの問題もあり、保健室に行きづらい子どももいると思います。トイレに置くことで本当は必要だけれども言い出せなかった児童・生徒にも届くのではないのでしょうか。

答 県内では、君津市が学校トイレに配備して、自由に使えるようにしています。大変すばらしい施策です。本市でも小学校・中学校のトイレに配備して、自由に使えるようもう一歩踏み込んだ施策を進めていただきたい。

問 教育委員会としましては、学校において子どもたちが困るようなこととはないようにしたいと考えております。

子どもを取り巻く状況というのは、これまでなかった新しい問題が出てくるんだろうと思います。生理をめぐると不安を一つ取り去ることで、子どもが不安を少しでも取り除くことができるのだとしたら、ぜひこの事業は継続的にやっていただきたいと思っております。